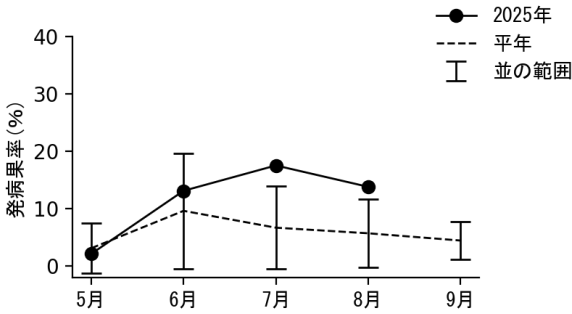


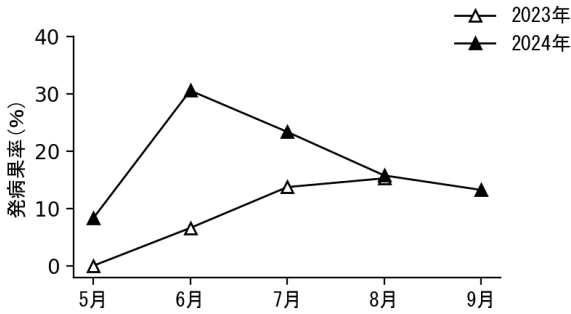
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

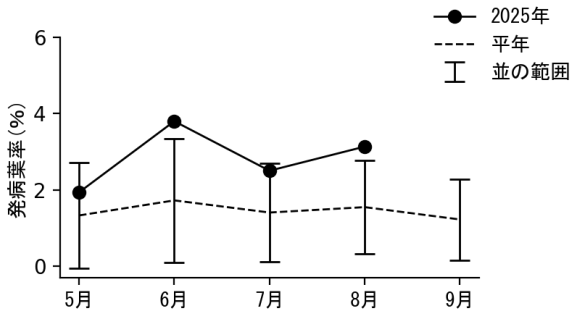
発病果率の推移（今期と平年）



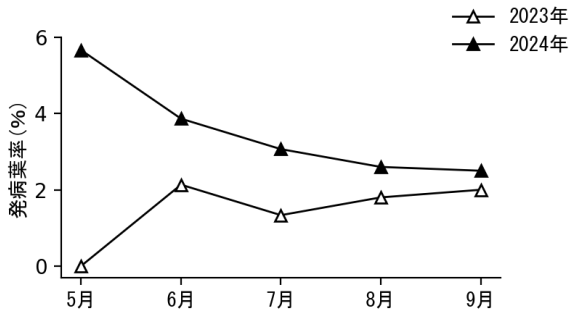
発病果率の推移（過去 2 年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去 2 年）



- ・ 果実の発病度2.8（平年1.6）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：64.6%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

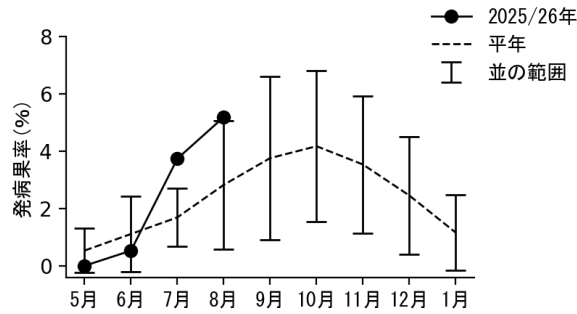
被害果→



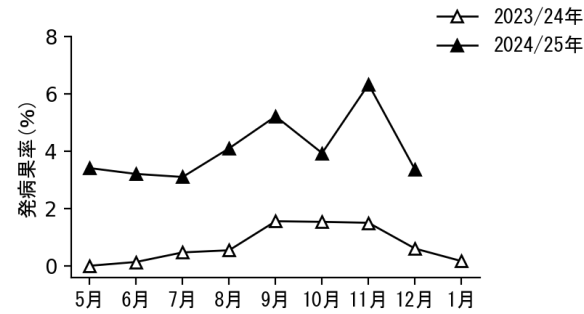
作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

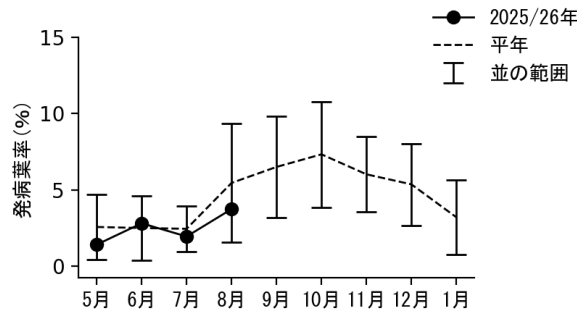
発病果率の推移（今期と平年）



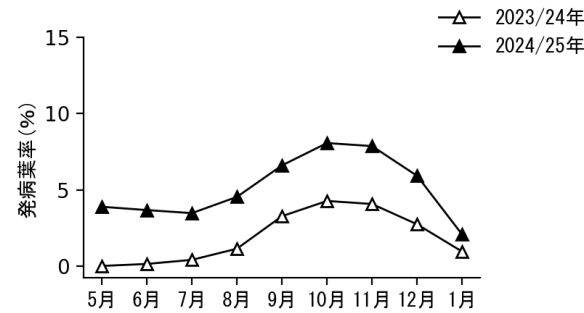
発病果率の推移（過去 2 年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去 2 年）



- ・ 果実の発病度1.0（平年0.6）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：74.0%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

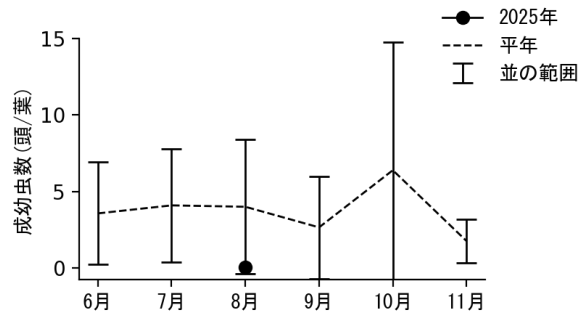
被害葉→



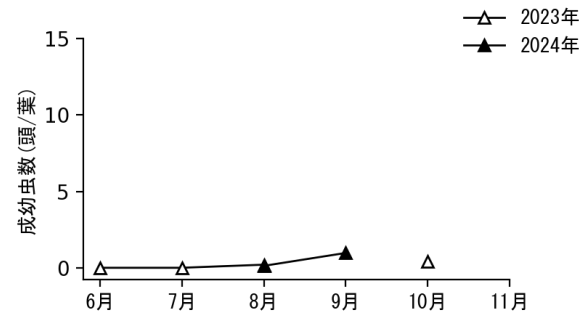
作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予 報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

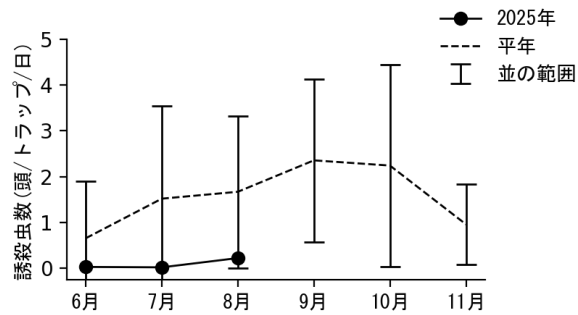
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



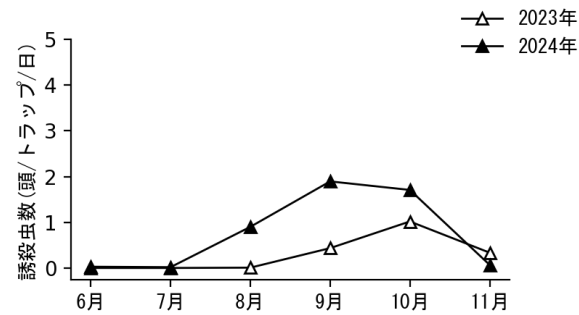
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率100%（平年：74.7%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



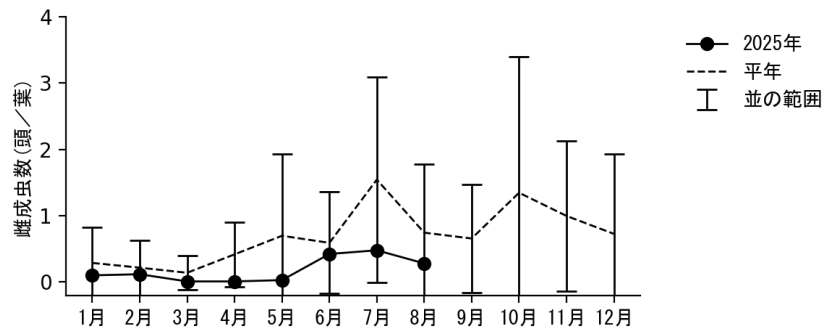
ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

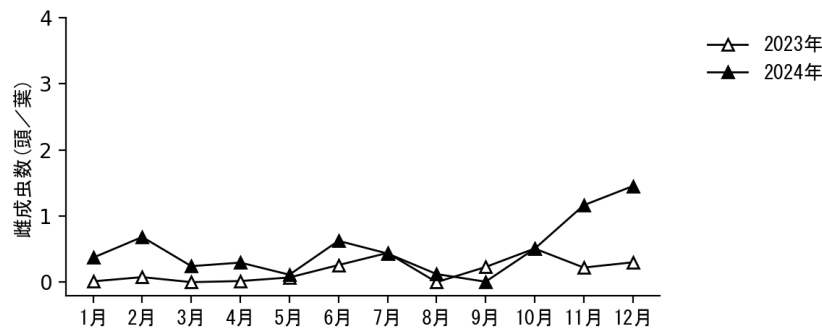
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0%（平年：52.0%）

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



マンゴーツメハダニ